

岡崎市指定無形民俗文化財

だいじょうさい ゆ き さい でん

# 大嘗祭悠紀齋田



六ツ美悠紀齋田100周年記念事業実行委員会

# 大嘗祭悠紀齋田

## □ 大嘗祭と齋田地の選定

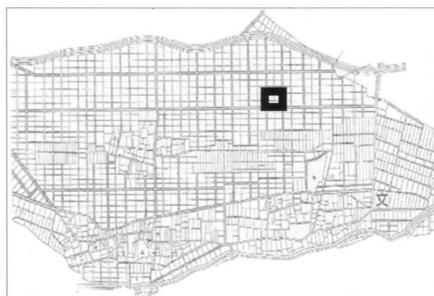
大嘗祭は、天皇がご即位の後、大嘗宮の悠紀殿(ゆきでん)、主基殿(すきでん)に初めて新穀を供えられ、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝し祈念されるもので、天皇一代に一度だけ行われる儀式です。この大嘗祭を行うに当たり、その年の新米を作る田を齋田といいます。

大嘗祭の齋田は、京都以東以南を悠紀の地方、京都以西以北を主基の地方と定められています。

大正天皇のご即位に当たり、大正3年2月5日齋田点定の儀が行われ、悠紀の地方は愛知県、主基の地方は香川県が選ばれました。悠紀齋田は、愛知県内11か所の候補地から厳選され、碧海郡六ツ美村大字下中島の早川定之助氏の所有する下中島字上丸ノ内(現岡崎市中島町)の水田4反歩(約3,960㎡)が選ばれました。

## □ 齋田地として選ばれたのは、

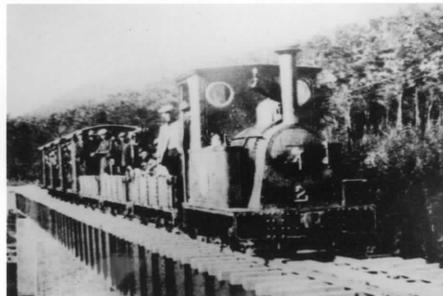
- 1 耕地整理が完了していること。(明治34年着工、明治37年竣工)
- 2 用排水路が整備されていること。(高橋用水や安藤川が改修されていました。)
- 3 交通の便が良いこと。(西尾軽便鉄道中島駅と占部停留所がありました。)



中島耕地整理

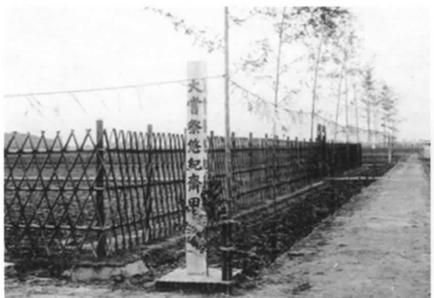


高橋用水取水口



軽便鉄道(矢作古川鉄橋)

## □ 齋田地の整備



標柱の設置(齋田の四隅に設置しました。)



農道、用水路整備(高橋用水路)



気象観測所設置(毎日2回観測しました。)

悠紀齋田決定の通知を受けた齋田4反歩(約3,960㎡)は、幅1間(約1.8m)の十字路をもって四つに区分して周囲1間幅を不浄除けとし、その内側の4尺5寸(約1.4m)を竹矢来(柵)で囲み、通路としました。南側にヒノキ材の黒木造りの正門を設け、東西側面にも同型の通用門を設けました。中央に制札型の標識を、四隅には無節ヒノキ材の標柱を立てました。気象観測所も設置し、毎日2回気温など観測して、天候の異変に備えました。

## □ 齋田地の警備

大正4年4月22日から10月11日まで延べ約2,300名が、齋田を中心に東西3町(約327m)南北3町の区域と齋田灌漑用の用水路(高橋用水)で、警備を行いました。午前7時から午後7時まで六ツ美村青年会員が、午後7時から翌日午前7時まで六ツ美村在郷軍人会員が、1時間毎に輪番交代して警備に従事しました。

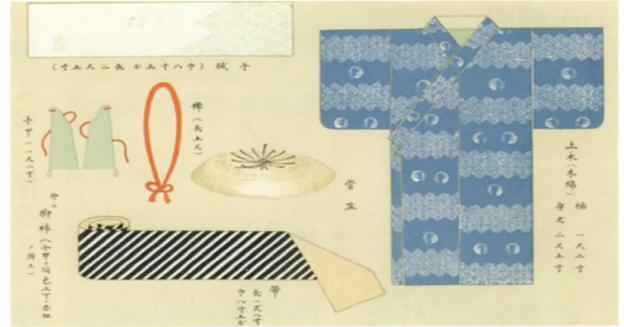
## □ 奉耕者の人選と衣装

奉耕者は、六ツ美村を始め碧海郡内各町村在住の篤農家で、信用の厚い122名(男子92名、女子30名)が選ばれました。そのうち六ツ美村から選ばれたのは、男子33名、女子29名でした。

男子奉耕者は、赤色木綿の襦袢に白の上衣を着て、藍色の短い袴をはき、烏帽子をかぶり、白色の脚絆を着用し、女子は、下げ髪で藍色地に菊菱と稲の丸を型染めした古代模様の上衣を着て、赤のたすき、茶と白の手綱染めの帯、藍色の手甲と脚絆を着け、菅笠をかぶり作業に従事しました。



耕作従事者



女子奉耕者の衣裳

□ 斎田の諸儀式と作業

斎田では、米が無事供納(くのう)できるように、大正4年4月22日祓式、4月23日播種式、6月5日お田植え式、8月15日抜穂式斎場地鎮祭、9月19日抜穂前一日大祓の儀、9月20日抜穂式など諸儀式が行われました。

斎田での作業は、大正4年4月23日種まき、6月5日田植え、6月10日から7月4日まで9回害虫の卵を採卵、6月20日から9月4日まで5回草取り、9月25日・26日稲刈りと稲架掛け、9月29日脱穀、10月1日から3日まで粃の乾燥、10月4日から粃摺りと唐箕による選別、精米、布磨き、10月14日全ての作業を完了し、10月16日新穀白米1石(約150kg)を京都御所内の宮内省出張所に納め、大任を果たしました。

□ 悠紀斎田祓式(はらいしき) 大正4年4月22日



祓式



斎田の代掻き(しろかき)

□ 播種式(はしゅしき) 大正4年4月23日



播種式



播種式後の種まき

□ 御田植祭 大正4年6月5日



田植え式 来賓700人、参観者7万人



苗取り

□ お田植え・お田植えおどり 大正4年6月5日・6日・7日

お田植え

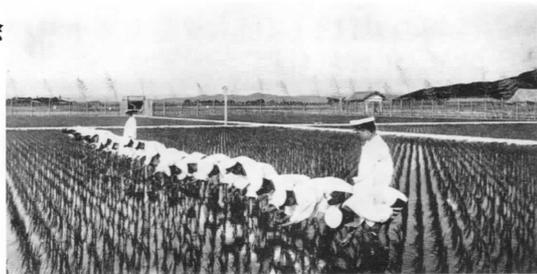


お田植えおどり



□ 害虫駆除・草取り

害虫駆除



大正4年6月10日から3日目ごとに9回、害虫の採卵を行いました。



草取り 大正4年6月20日・7月2日・7月10日・7月20日・9月4日の5回行いました。

□ 抜穂式斎場地鎮祭 大正4年8月15日



- 1 斎田西隣の田の2反歩(約1,980㎡)を借受け、
- 2 斎場は、東西約20間(約36m)・南北15間(約27m)で、神殿の位置は、斎田中央通路の延長線上とされました。
- 3 斎場には、新しい土を2尺(約60cm)盛り、
- 4 矢作川から運んだ白砂を敷き詰めました。
- 5 中央に神殿、右に神饌殿(しんせんてん)、左に稲實殿(いなのみどの)と幄舎(あくしゃ)が2棟建てられました。

□ 抜穂前一日大祓の儀 大正4年9月19日



矢作川左岸美矢井橋上流大聖寺磧(かわら)の式典会場

□ 抜穂式 大正4年9月20日



早川斎田主と雑色(ぞうしき)10人(耕作従事者のうち優良な人を選抜しました。)は、刈り取った稲穂4束を三方に載せ、斎場に運びました。

□ 稲刈り・脱穀・精米



①稲刈り 大正4年9月25日・26日



②稲架掛け(現六ツ美南部小学校運動場)  
大正4年9月25日から28日まで乾燥する。



③脱穀(千歯こぎ)(現六ツ美南部小学校運動場)  
大正4年9月29日



④粃の天日干し(現六ツ美南部小学校運動場)  
大正4年10月1日



⑤粃摺り(八幡社境内) 大正4年10月4日



⑥唐箕による選別(八幡社境内)



⑦布磨き(八幡社境内)  
大正4年10月5日から9日まで



⑧撰米(現六ツ美南部小学校教室)  
大正4年10月5日から12日まで

□ 斎田米の輸送・供納(くのう)



悠紀斎田供納米と書いた標識を先頭に、供納米を安城町役場に運びました。大正4年10月15日



京都御所清所門から供納米を運び入れ、斎庫に納めました。大正4年10月16日

## □ お田植唄



参観者に配られたお田植唄のパフレット

作詞 岡部 譲(熱田神宮 宮司)

- 1 今日の良い日の御田植ははじめ 稲の萬歳御世の数
- 2 やがて世界のむつみの種も 悠紀の御田より出るやうに

作詞 早川 龍介(六ツ美村 村長)

- 3 菅の小笠にそろひの着もの 苗もそろへば気も揃う
- 4 三河萬歳萬歳稲の 穂に穂出るよに祈らむしよ

作詞 山崎 延吉(愛知県農林学校 校長)

- 5 早苗うゑましょ眞すぐに植ゑう すぐは神様およろこび

□ 大嘗祭悠紀齋田での奉仕の記録は、毎年6月第1日曜日の「六ツ美悠紀齋田お田植えまつり」として傳承されています。そして、当時使用された用具は、平成25年6月、悠紀齋田古跡地にオープンした地域交流センター六ツ美分館「悠紀の里」六ツ美歴史民俗資料室で展示、保存されています。

お田植えまつりの「御田植唄」「踊り」「用具」「装束」は、昭和41年3月10日、永きにわたり傳承されてきた歴史の・民族的祭事の重要性に照らし、「岡崎市無形民俗文化財」に指定されました。

※ このパンフレットでは、「むつみ」の表記を、岡崎市と六ツ美町の合併以前については「六ツ美」としました。六ツ美地域では、慣例上「ッ」(小文字)が使用されてきたことを考慮しました。

## □ 参考資料

- 『悠紀齋田記念写真帖 上巻・下巻』 愛知県(1915)
- 『今上陛下 御即位式写真帳』 帝国軍人教育会(1915)
- 『悠紀齋田記録』 愛知県(1916)
- 『六ツ美村史』 六ツ美村是調査会(1926)
- 『悠紀齋田80周年記念誌』 六ツ美悠紀齋田保存会(1995)
- 『碧海大地の農業の礎 大嘗祭悠紀齋田』 野々山克彦(2014)
- 『大嘗祭悠紀齋田記念絵葉書』
- 『西尾鉄道開業記念絵葉書』



## □ 交通案内

お田植えまつりは、「地域交流センター 六ツ美分館 「悠紀の里」」で開催されます。

・「悠紀の里」 愛知県岡崎市中島町字上丸ノ内7番地4 ☎0564-57-5050

・公共交通機関を利用

名鉄東部交通 西尾～東岡崎線

東岡崎駅南口⑬番のりばから 「西尾」行きに乗車「長池公園前」下車 徒歩5分

JR岡崎駅西口のりばから 「下青野経由西尾」行きに乗車「長池公園前」下車 徒歩5分

・車を利用

豊橋方面から 国道1号「岡崎インター西」交差点を左折～国道248号「上地三」交差点を直進～悠紀の里 約10km

名古屋方面から 国道1号「八帖」交差点を右折～「六名一」交差点を右折～「東浅井町」交差点を左折～「中島町上野」交差点を左折～悠紀の里 約9.8km  
(約1.5km) (約7.4km) (約0.6km)  
(約0.3km)



〒444-0244

愛知県岡崎市下青野町字天神64番地

(岡崎市役所六ツ美支所内)

六ツ美悠紀齋田100周年記念事業実行委員会

☎0564-43-2500